

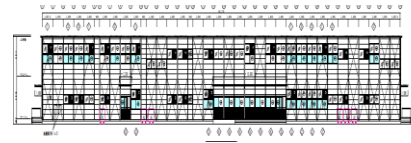
CASBEE®名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版

評価結果

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	丸の内小仮設校舎賃貸借	階数	地上2F
建設地	名古屋市中区丸の内三丁目301番の一部	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、準防火地域	平均居住人員	584 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,300 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年12月 予定	評価の実施日	2024年9月20日
敷地面積	10,789 m ²	作成者	
建築面積	1,246 m ²	確認日	2024年9月20日
延床面積	2,266 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=0.6 ★ ★ ★ ★ ★ A: ★ ★ ★ ★ B+: ★ ★ ★ B: ★ ★ C: ★ S: ★ ★ ★ ★ ★ A: ★ ★ ★ ★ B+: ★ ★ ★ B: ★ ★ C: ★ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。	30%: ★ ★ ★ ★ ★ 60%: ★ ★ ★ ★ 80%: ★ ★ ★ 100%: ★ ★ 100%超: ★ 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ オフサイト手法 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.6 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9 機能性 耐用性・信頼性 対応性・更新性 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.7 生物環境 まちなみ・景観 地域性・アメニティ	LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0 建物外皮の熱負荷 自然エネルギー 設備システム効率化 効率的運用 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.4 水資源保護 非再生材料の使用削減 汚染物質回避 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.7 地球温暖化への配慮 地域環境 周辺環境への配慮	Q のスコア= 2.4 LR のスコア= 2.6

3 設計上の配慮事項		
総合 利用者が過ごしやすい環境になるように配慮した計画となっております。	その他 特になし。	
Q1 室内環境 建築基準法他諸法令を満たす室内環境を維持するよう計画しており、室内環境を快適に過ごせるよう考慮しております。	Q2 サービス性能 天井高が3mあり、利用者にゆとりのある空間を提供しております。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし。
LR1 エネルギー 特になし。	LR2 資源・マテリアル 水準的な仕様を採用しております。	LR3 敷地外環境 諸法令を遵守する最低限の取り組みを行いました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

丸の内小仮設校舎賃貸借

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.7
LR1	エネルギー	2.7	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	0.0	0	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.075	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.3
LR2.1	水資源保護	2.2	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.028125	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.7



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.3



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。